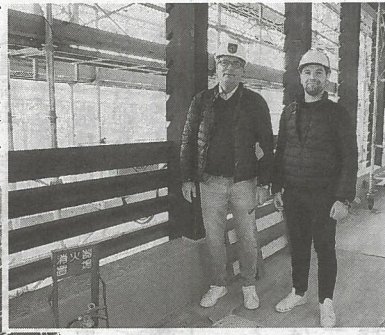
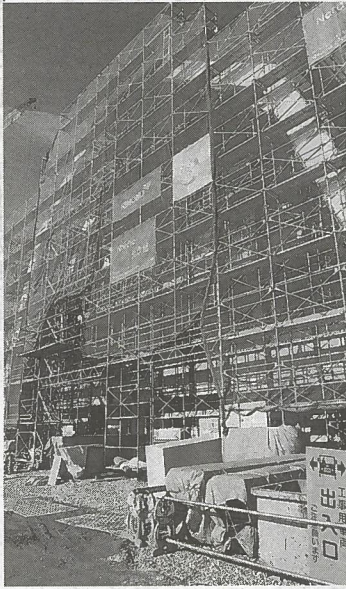


ファサードに杉板柿渋仕上げ

北欧の伝統・日本の木材を融合

北欧パビリオン

左からダグ・オラブ・コッペルピク、マルコ・サヴィノプロジェクトマネージャー。後ろに見える黒い柱のようなフレームが杉板柿渋仕上げ(右)、とファサードに杉ルーバーを張るパビリオン



「北欧とともにより良い明日へ」というメッセージを込めた北欧パビリオンのビジョンは、ノルウェーの建築家、ダグ・オラブ・コッペルピクと、イタリアの建築家、マルコ・サヴィノプロジェクトマネージャーの共同作業によるものである。彼らは、日本の木材と伝統的な工法を融合させたファサードを実現している。

大阪・関西万博の北欧パビリオン「ノルディック・サークル」(デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン)の5カ国によるパビリオンの骨組み工事が終わり、内外装工事に入った。建設コンサルタント会社ルモンド・ジャパンのマルコ・サヴィノプロジェクトマネージャーは「元々は木造で計画されていたが、集材調達などの影響でS造に変更になった。だが、外装に杉ルーバーを特殊な柿渋で塗装して使用するなど、日本の杉・松を使い北欧の伝統的な木の使い方を取り入れた」と話している。

注目集まるCLT敷板

木材の循環活用をアピール

ヒノキブシ

ヒノキブシ(名古屋市、酒井文和社長)が販売しているCLT敷板「CLTmat」が注目を集めている。木材の循環活用や軽さほかをアピールしており、木材活用の意識の高まりから自治体、学校、林業事業者ほかからの問い合わせが増加。自社住宅の施工現場でも活用しており、三重CLT工場(三重県いなべ市)では現物を見ることもできる。

同社が東海4県で販売するCLTmatは、工事現場の仮設道路、資材運搬路、作業ヤードで使用される。針葉樹の3層構成で、鉄敷板に比べて重量は3分の1、4分の1程度。このため、運搬コストやCO₂排出量が低減され、重機や人が



自社の施工現場でも活用している「CLTmat」

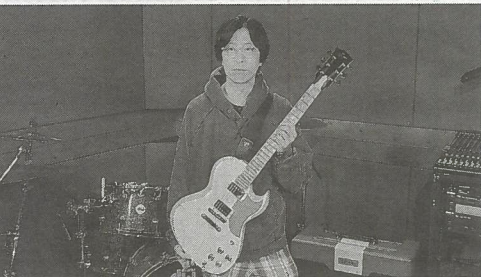
乗っても滑りにくいと好評。同社は実際に施工現場でこれらの効果を確かめており、今後は社外連携でリサイクルも検討する。

サイズは2種(5100×725×99mm、5200×725×99mm)で、重量は5100版が約230kg、5200版が約460kg。問い合わせは、同社三重支店(電話0594-780480)まで。

能登ヒバのオリジナルギター完成

より付加価値の高い形で活用

フルタニランパー「アテノオト」



能登ヒバのギターを受け取ったホリエ氏は「ライブなどでぜひ使っていきたい」と話した

テノオトシリーズの楽器に、能登ヒバの圧縮材を使用したギターが完成した。フルタニランパー「アテノオト」は、能登ヒバの圧縮材をギターボディに使用し、音質がよくなるだけでなく、木材の特性を活かしたデザインとなっている。

フルタニランパー(石川県金沢市、古谷隆明社長)が開発している、能登ヒバの楽器ブランド「アテノオト」が音楽業界で広がりを迎えている。11月22日に「ストレイテナー」のボーカル・ホリエアツシ氏が能登ヒバのオリジナルギターを受け取った。このほかにもア

ティックの伝統的な船小屋をイメージした」と話している。パビリオンはS造の3階建て、延床面積約1200平方メートル、高さ17メートル、骨組みは鉄骨だが、ファサードには杉1500×280mm

などのフレームを建てる。2、3階はそのフレームに杉足場板35×235mmなどをルーバーとして使い、これに特殊な柿渋塗装を行った。ファサード部分の1階は松化粧板の柿渋仕上げ、内装で使用

る。ネットの表面に張り付ける指板には国産カシを採用した。オーランド産材のギター。木目の美しさを全面に出したデザインとなっている。

ギター製造を担ったSAGONGM(兵庫県尼崎市)の高山賢社長は「能登ヒバは弱く、暴れやすかったが、他の木に比べて少し扱いやすかった。しかし、マホガニーよりも目が詰まっているので、音質がよく、木目の美しい。また、能登ヒバの圧縮材がギターにとって重要なネックの部分と非常に相性がよかった」と話す。

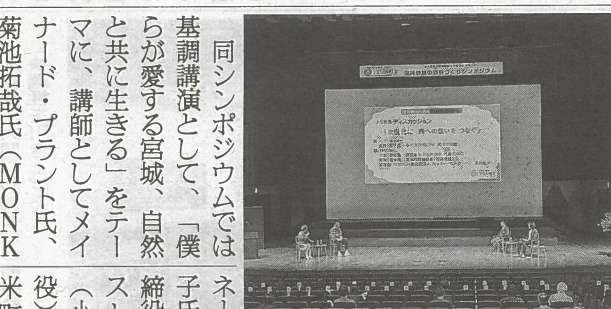
「木材・森林の価値、可能性を高めよう」採択大阪府木連・振興大会大阪府木材連合会(津田潮会長)は11月15日、大阪市内で大阪府木材産業振興大会を開いた。50回目となる今回は、大阪府内の木材関連団体から約40人が参加した。

同大会では、山下光明同連合会副会長が木材産業を取り巻く環境や課題を示した。宣言は「大阪府の木材産業の発展を促す」という内容で、今後の取り組みや課題を共有し、協力を呼びかけた。津田会長は「今年度の世界遺産推進課補佐(佐)が「世界遺産(渡島(さど)の金山)その価値と魅力」をテーマに記念講演を行った。

のために府民理解の醸成に取り組む」「万博開催を機にウッドファースト社会をおおさかの実現を図る」など4項目の行動指針を提唱。また、業界従事者表彰では、来賓の塩野雅典大阪府環境農林水産部次長より推進室長(上田木村)に大阪府知事感謝状を授与した。

森を守り育てることの大切さを

宮城県で来年秋、「第48回全国育樹祭」が開かれる。同祭りの開催は初。全国育樹祭の1年前プレイベントとして11月16日に仙台市内で「国民参加の森林(もり)づくりシンポジウム」を開催した。300人を超える一般参加者もあ



300人を超える一般参加が来場した

同シンポジウムでは、基調講演として、「僕らが愛する宮城、自然と共に生きる」をテーマに、講師としてマイナード・プラント氏、菊池拓哉氏(MONK)が登壇した。米町森林組合課長補

清水建設ほかと森林づくり協定 岐阜県は11月20日、岐阜協働による森林づくりの1環である「企業との協働による森林づくり」について、清水建設(東京都、井上和幸社長)と古河林業(岐阜県郡上市、古川秀樹社長)、郡上市との森林整備協定を

締結した。同協定は、岐阜県内37例目となる。対象森林は、郡上市八幡町那比川戸洞地内の3万7900平方メートルで、森林の名称は「シメズめぐりの森」で、協定期間は2030年3月末までの6年間。今後、植林や間伐などの森林整備活動に取り組んでいく。



津田会長は「今年度の世界遺産推進課補佐(佐)が「世界遺産(渡島(さど)の金山)その価値と魅力」をテーマに記念講演を行った。

「木材・森林の価値、可能性を高めよう」採択大阪府木連・振興大会大阪府木材連合会(津田潮会長)は11月15日、大阪市内で大阪府木材産業振興大会を開いた。50回目となる今回は、大阪府内の木材関連団体から約40人が参加した。

同大会では、山下光明同連合会副会長が木材産業を取り巻く環境や課題を示した。宣言は「大阪府の木材産業の発展を促す」という内容で、今後の取り組みや課題を共有し、協力を呼びかけた。津田会長は「今年度の世界遺産推進課補佐(佐)が「世界遺産(渡島(さど)の金山)その価値と魅力」をテーマに記念講演を行った。

のために府民理解の醸成に取り組む」「万博開催を機にウッドファースト社会をおおさかの実現を図る」など4項目の行動指針を提唱。また、業界従事者表彰では、来賓の塩野雅典大阪府環境農林水産部次長より推進室長(上田木村)に大阪府知事感謝状を授与した。

のために府民理解の醸成に取り組む」「万博開催を機にウッドファースト社会をおおさかの実現を図る」など4項目の行動指針を提唱。また、業界従事者表彰では、来賓の塩野雅典大阪府環境農林水産部次長より推進室長(上田木村)に大阪府知事感謝状を授与した。

広葉樹製品 ク材ではなく建材系商品の荷動きは、品に流れる傾向がある

為皆見据え引合い慎重

が、需要の先行きへの警戒感から日本国内のインドネシア産メルクシ松製品が12万5000

れが生じたPNGも、今年は予定どおり入荷